

**目標9 2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現**

## Child Care Commons 2.0：“Co-育ち”のための子どもの社会関係資本の構築と社会価値創出

**Project manager**

(2021 年度採択)

**細田 千尋**

東北大 学院情報科学研究科  
准教授



**代表機関**

東北大

**研究開発機関**

NTTコミュニケーション科学基礎研究所  
金沢大学  
神戸大学  
上智大学  
東京大学  
東京学芸大学  
東京藝術大学  
東京都市大学  
東北大

### プロジェクト概要

都市化や核家族化の進行により、子育ての負担が親に過度に集中する一方で、少子化も深刻化しています。こうした状況の中、子育てを社会全体で支える「子育ての社会化」は、重要な社会的課題の一つです。

この課題に対し、「Child Care Commons (CCC)」プロジェクトでは、子どもの育つ場における、子どもを中心とした社会的繋がりである社会関係資本（ソーシャルキャピタル）に着目し、親子と血縁関係のない第三者も信頼関係に基づいて子育てに関われる新たな仕組みの構築を目指しています。

2025年度からは、前年度までの研究体制をさらに拡大し、CCC2.0として社会学、心理学、脳科学、教育学、情報科学、医学、ロボティクスなどの知見を統合し、子育ての場における多様な関係性を育むための場や技術を設計・実装していきます。

これにより、すべての子どもが多様で豊かな社会関係資本を築きながら自己効力感と主体性を育みながら成長できる持続可能な子育て環境を実現し、少子化時代における子どもが育つ場や社会のウェルビーイング向上に貢献することを目指します。

### 終了時(2027)年のマイルストーン

- 親、子、第三者の最適な関わり方を提案するガイドラインを策定します
- CCC2.0の効用を学際的に解明します
- 社会関係資本を支援する技術プラットフォームと教育プログラムを提案します
- 自治体や企業における小規模社会実験により、子育ての社会化を実現する新たな価値創造フレームワークを提案します

### 研究開発体制(2025年4月時点)

4つの研究開発項目により、子育てを社会化するしくみの構築をめざします。項目1では、地域特性や個人特性を考慮した個々人にとって最適なつながり方、親、子、第三者の組み合わせについて提案するガイドラインとモデルの提案を行ないます（課題11・課題12・課題13・課題14a・課題14b）。項目2では、CCC2.0の効用を明らかにします（課題21・22）、項目3では社会関係資本を支援する技術プラットフ

ォームおよび教育プログラムを提案します（課題31・課題32・課題33）。項目4では小規模社会実験を通じて子育てを社会化するための価値創造フレームワークを提案します（課題41・課題42）

### 研究開発項目1:ガイドライン・モデルの策定

どのような繋がり方が最適か?  
地域と家族の関係は?

いつどのような繋がりが必要か?  
周産期から検討

被災地など特殊な環境下での  
最適な繋がり方とは?

ロボットは社会的繋がりを  
支援できるか?

### 研究開発項目2:効用の解明

子どもの社会的繋がりや関係性  
はどのように測定/評価できる?

社会的繋がりを客観的に  
測定/評価できる?

地域によって社会的繋がりや  
他の心理機能への効果は違う?

### 研究開発項目3:技術プラットフォームと教育プログラム

安全に社会的繋がりを記録し,  
可視化・価値化するためには?

社会的繋がりを計測するには?  
共感をうまく示すためには?

社会的繋がりを  
教育することは可能か?

### 研究開発項目4:小規模社会実験とインセンティブ設計

親、子、第三者の関係性は  
長期的にどのように変化する?  
参画を促すにはどのような  
ワークショップが機能するのか?

自治体や企業でCCCを行なうと  
どのような効果があるか?  
課題は何か?